

# 天然アユの遡上調査

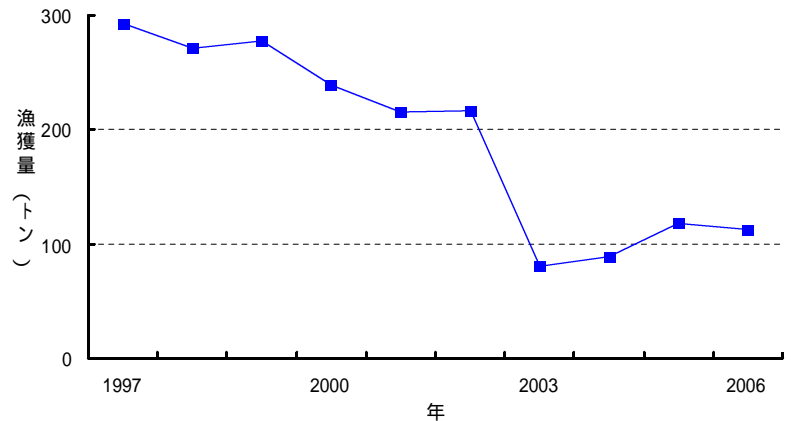
## 1 背景と目的

岡山県の内水面の重要魚種であるアユの漁獲量は2003年に急激に減少し、その後100トン前後を推移しています。

アユ資源の維持増大を図るためには、天然アユを増加させ、かつてのように回復させることが重要であり、そのためには天然アユの遡上実態や再生産状況を把握する必要があります。

水産試験場ではアユの遡上実態を調査していますが、今年、旭川において実施しました。

アユの漁獲量の推移(水産課調べ)



## 2 調査場所

- 岡山市内の旭川河口から約12km上流のクラレ取水堰で次のとおり行いました。

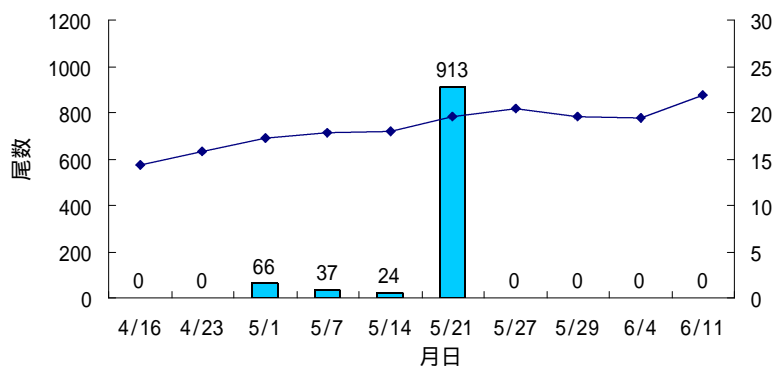
観測日：毎週1回  
 観測時間：7:30～12:00(30分毎に5分間観察)  
 観測場所：左岸又は右岸の1カ所



## 3 アユの遡上結果

- 今年の遡上は5月上旬から中下旬にみられ、5月21日頃の遡上のピーク時には、900尾以上のアユが観測されました。
- この調査結果から、約12万尾が遡上したと推定しました。1999年に行った同様の調査では、約15万尾が遡上したものと推定されています。
- 他の河川での遡上状況を内水面漁協の関係者からの聞き取ったところ、吉井川では昨年の10倍以上の遡上が見られたものの高梁川では遡上がほとんど見られなかったとのことでした。

観測時間内に遡上(観測)したアユの尾数



## 4 今後の予定

秋以降は産卵場でふ化したアユの調査も行います。

内水面漁協の関係者からは、「以前は、もっと多くのアユが遡上していたのになあ」とよく聞きます。天然アユの遡上量は年変動が大きくその年のアユ漁獲量に大きく影響します。今後、天然アユの遡上量に影響を及ぼす要因等、明らかにしていきたいと考えています。